

発行所

チーム ふなGO!

〒100-8962 東京都千代田区

永田町2-1-1 参議院議員会館302

Tel:03-6550-0302

Fax:03-6551-0302

☒yasuhiko_funago@sangiin.go.jp

FunaGO! 新聞

2025年(令和7)7月1日

機関紙 月刊 最終号



山本代表から贈られた花束とともに

6年間ありがとうございました ご支援に感謝

前号でお伝えした通り、

船後靖彦は2025年7月末の任期を持って、政界を引退することを決めました。後援会会員として、船後を、れいわ新選組をお支えいただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

19年、れいわ新選組を結成した山本太郎代表からの誘いを受け、船後は参議院選挙に挑戦しま

した。党内で優先的に当選できる「特定枠」を用いた船後と木村英子議員が当選。個人で99万票を獲得した山本代表が落選することになりました。

船後は「6年間生き続けて、任期をまっとうすることが代表への最大の恩返しになると考えました」と振り返ります。実際、ALS患者が人工呼吸器をつけた状態で国会議員になるのは初めて。前人未到の挑戦でした。国会では変革の日々の有識者や当事者らと

入れるよう本会議場が整備され、スロープが設置。介助者があらゆる場に同席し、質疑の場ではパソコンの電子音声や秘書による代読を用いました。

23年には、史上初めて、本会議場で電子音声を聞いた代表質問を行い、岸田文雄首相(当時)に問いただしました。

活動は国会内にとどまりません。22年にはスイス・ジュネーブ、23年には韓国、24年には台湾を訪問し、各国の有識者や当事者らと

交流を深めました。世界的にも例のないALS議員に、多くの注目が集まりました。

全身まで声を出せない進行性難病の船後が拓いた道は、次の障害・難病当事者議員のみならず、困難のある人が働く道筋になるはずです。

支えていただいた皆様の恩返しはこれからも続きます。今後の船後の活動にも、ぜひご注目ください。改めて、6年間、本当にありがとうございました。

(編集部)



写真で振り返る 6年間の軌跡

参議院議員に就任した船後靖彦は6年間、さまざまな活動に取り組みました。大注目を浴びた、国会初登壇(右上)。当選後、初の長距離移動となった、沖縄での定員内不合格への要望活動で、当事者の方々と交流しました(中央右)。



2021年の衆院選では、比例代表選挙ブロックから立候補した、山本太郎代表を全力で応援しました(右下)。22年、スイス・ジュネーブの国連本部での障害者権利委員会の対日本政府審査を傍聴するため、初の海外出張に挑戦。飛行機やバスを乗り継いでの旅路でした(左下)。

23年には本会議で2度、代表質問を行いました(中央左)。声を出せない船後議員は、パソコンを使った音声読み上げで首相に対して質問。こうした質問方式は憲政史上初であり、言語障害のある人の国会活動に、ここでも道を開くことになりました。



船後靖彦後援会

「チームふなGO!」

ありがとうございました

船後靖彦後援会「チームふなGO!」にご加入いただき、誠にありがとうございました。お支えいただいた皆様から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

TEL:03(6550)0302 FAX:03(6551)0302
 mail: yasuhiko_funago@sangiin.go.jp